令和 ５ 年 １ 月 １８ 日

地域密着型サービス

令和４年度　第 ５ 回運営推進会議議事録

運営推進会議の開催状況について

法人名・事業所名	社会福祉法人幸清会　グループホーム来夢の杜太田		
所在地	茨城県常陸太田市上河合町１５２７－１		
担当者名・連絡先	施設長　　湯田　愛	TEL ０２９４－８０－６５４９	
従業者	従業者総数 １８人（内訳：常勤９人　非常勤９人）（令和５年１月１８日現在）		
うち夜勤の従業者	１日当たり事業所全体の勤務従業者数　　２人		
運営推進会議の開催日	令和 ５ 年 １ 月 １８ 日　（令和 ４ 年度 第 ５ 回）		
運営推進会議の構成員	所 属（団体等）名	職　名	出　欠
入居者			
入居者の家族	あじさいユニット	ご家族	出　席
入居者の家族	すずらんユニット	ご家族	出　席
地域住民の代表者	上河合町	副会長	出　席
地域民生委員	上河合町	民生委員	出　席
市町村職員	常陸太田市高齢福祉課	主幹	出　席
地域社協	常陸太田市社会福祉協議会		出　席
地域社協	常陸太田市地域包括支援センター		欠　席
地域消防	常陸太田市消防本部　予防課		出　席
地域駐在所	常陸太田警察署　刑事生活安全課	巡査部長	出　席
施設職員	グループホーム来夢の杜太田	施設長	出　席
施設職員	グループホーム来夢の杜太田	計画作成担当者	出　席
議題	○運営状況報告 ○防犯カメラの設置場所と進捗状況について ○法人設立 50 周年について 　帰属意識を高めるとはどうゆうことか ○施設での看取りについて		
利用状況	利用者総数１６人（令和５年１月１８日現在）平均介護度 3.02 稼働率 94.1%		
	要支援１：０人	要支援２：０人	要介護１：４人	要介護２：２人
	要介護３：３人	要介護４：３人	要介護５：４人	ー
交流・行事等の実施状況 ・利用者の家族との交流内容 ・地域との交流内容 ・その他の事業　など	（直近約４か月又は前回報告以降） 11 月 27 日　あじさいユニット会議 11 月 28 日　新型コロナウイルス感染症研修会 11 月 30 日　すずらんユニット会議 12 月４日　入居者誕生会 12 月５日　秋の味覚祭（けんちん汁・ちゃんちゃん焼き） 12 月７日　新型コロナワクチン接種５回目（1 名） 12 月９日　新型コロナワクチン接種５回目（15 名） 12 月 14 日　新型コロナワクチン接種５回目（1 名） 12 月 14 日　内部研修（虐待の芽チェックリスト検討） 12 月 19 日　あじさいユニット会議		

	12月20日　新卒者面接 12月22日　出張理美容 12月26日　クリスマス会 12月27日　すずらんユニット会議 1月1日　　書初め大会 1月2日　　初詣 1月6日　　経営会議 1月6日　　認定調査 1月11日　居室壁紙張替え工事 1月11日　防犯カメラ設置工事開始 1月12日　事前調査 1月18日　運営推進会議・身体拘束適正化委員会 1月19日　監事監査 1月20日　新規入居者受け入れ 1月25日　所長会議 1月27日　冬のボウリング大会 1月31日　行動規範委員会
事故の状況	0件
ヒヤリハット報告	（１１／１６～１／１７） ヒヤリハットⅠ　１１件 ヒヤリハットⅡ　４件（内訳：転倒４件） 苦情ヒヤリハット　0件
相談・苦情の状況	（直近約４か月又は前回報告以降） 苦情　0件 相談　２件（入居相談・空き状況の問い合わせ多数）
身体拘束の状況	有：無 身体拘束等適正化委員会（直近の開催日　本日開催１月１８日）
感染症等の発生状況	有：無
その他の報告事項	○稼働率について 現在契約者数が16名となっている。1月3日に施設内で看取りを行った。また、1月12日には計画的に介護老人保健施設に入所する方がいたため退去となっており、1月に入って2名の退去があった。 すでに、広報誌で入居者募集をかけていたこともあり、新規の問い合わせをいただいた方の事前調査が済んでおり、1月20日に受け入れ予定となっている。 ○新卒者の面接結果について 12月20日に今年3月に高校を卒業する生徒さんが来夢の杜太田に応募して下さり、筆記試験と面接の結果採用となっております。 4月1日付けで来夢の杜太田の職員となります。 ○防犯カメラの設置について 1月11日より防犯カメラの設置工事は始まりました。 設置完了までしばらく時間がかかりますが、年度内には設置を完了させたいと考えています。 設置場所について警察の方から意見を伺う 警察：設置場所問題ないです 法人よりリビングには必ずカメラを設置するように言われている。各ユニットの入居者の生活場所を踏まえて設置場所は異なっている。 他に廊下が全体見えるように設置する予定です。 一部死角となる場所が出てしまうのですが、追加で設置するかどうかは運用しながら検討したいと考えている。

	設置案の緑が施設内、赤が屋外の設置場所となっている。 特に離施設が起きた際に左右どちらにいったかを把握するためのカメラに位置についてはは、現在はこの研修室角の設置を考えておりますがカメラの映像を確認しながら場所については検討していこうと思っています。 〇法人設立 50 周年を迎えます。 これを機会に、それぞれの事業所において職員の法人に対する帰属意識について考えるようにという話があった。 〇地域密着型の施設として グループホームは、地域密着型の施設として位置づけられており、地域に根差した運営を求められていますが、以前よりこの部分が課題であったことに加えて、コロナ禍でそもそも人とのつながりが希薄になっている状況もありますます大きな課題となっている。 私たちが取り組もうとすることが、地域が求めていることと違っていると意味がないので、是非地域の皆様が考える施設の在り方…どんな存在でいてほしい…どんなことをしてほしいなど地域の方の意見をお聞きしたいと思っている。次回運営推進会議の時に是非皆様に意見をお聞きしたいと思いますので考えてきていただけないでしょうか 〇帰属意識について どうすれば、帰属意識を育てることができるのか人生の先輩である皆様の意見をお聞きしたい
添付資料	運営推進会議資料（20221116～20230117） 来夢の杜太田通信（VOL.69～70） 防犯カメラ設置場所（案） 令和４年度「来夢の杜太田」ご家族アンケート
会議出席者より 事業所の活動状況の評価 事業所への要望・助言等	〇帰属意識について 施設長：社会福祉法人幸清会創立 50 周年を迎えるにあたり、各事業所で法人に対してどれだけ愛着があるか…帰属意識を職員がどれだけ持っているかを確認する機会にするようにとの話があった。職員はこれまで、法人への帰属意識を考えて働いていなかったと思う。それは私自身にも言えることで。例えば、ユニクロや無印良品の商品が好きで、好きすぎてその商品に囲まれて仕事ができる幸せ…みたいなものがあるのだと思う。とても有名な…とか、憧れの社長のもとで働ける幸せ…みたいな。そういう感覚が、簡単にいえば帰属意識なのだと思う。そのような感覚を、北海道が本部という来夢の杜太田の職員たちが高めていけるかというとなかなか難しいことなのだと思う。でも、必要なことだと思う。職員にどんな風に帰属意識を高められるようにサポートしていけばいいか、人生の先輩方からアドバイスをいただきたい。ご自身が帰属意識をもって働くためにどうしているか…なども含めてお願いします 常陸太田警察署 〇帰属意識って、本当に考えたことなかったですし、難しいことだと思います。難しい… 施設長：どうして警察官になったのですか？ 〇人のために何かをしたい…そんな気持ちがやっぱりあった。そう考えると、仕事の選択肢はそんなになかった気がする。 施設長：警察官を辞めたいと思ったことはありますか？ 〇消防もそうですが、警察って、勤務がとても独特なんです。介護と同じように人と対峙する仕事なので、いろいろあります。

	施設長：それでも警察官として仕事を続けていける理由ななんですか？ 〇事件をひとつ解決する…人から感謝される…そういうことがやっぱりモチベーションにつながります。人とのつながりを感じるときはモチベーション上がります。 〇仕事を失敗したときは落ち込みますしそれでも、自分自身でやっぱりモチベーションを上げていくしかないんだと思います。 〇本部が北海道ということもあると思いますが、本部の人間を職員がどれだけ近く感じることができるか…ということもあります。 施設長：たしかに。法人からの情報をそのまま現場におろしてもなかなか理解が難しかったりすることもあるので、わかりやすい言葉でいろいろ変換して場におろすようにはしています。 常陸太田消防本部 〇消防に入ったきっかけは、警察の方と同じですね…人のために何かをしたいというものです。 〇仕事を続けていくためには、自分が何を目指しているのか…なのだと思います。やっぱり自分自身の意識次第なんだと思います。救命の仕事が好きでしたけど、今は消防の事務的な仕事をしています。ポジションが違ってもやっぱりやめずにこうして仕事を続けているのも、やっぱり誰か…というより、自分自身の意識だと思うんです。 〇ハード的な部分でどうすることもできなくても、やっぱり人と関わる仕事ですし、ソフトの部分でどう職員を支えていってあげられるかなのだと思います。施設長さんが職員と対等に…フランクに話をすることができるということも職員にとっては大切なことだと思います。 常陸太田市社会福祉協議会 〇私は感謝の気持ちを持つようにしています。「仕事をさせてもらっていることに感謝しています」 施設長：それってすごく大切ですよね 〇現場にでることも多いですけど、やっぱり利用者の方から「ありがとう」って言われると、やりがいにつながります。 〇来夢の杜太田の職員の皆さんは、こうして働いていることで入居者の生活と命を守っているのだからすごい仕事をしているのだと思います。それを職員が感じているかどうかだと思います。 施設長：皆さんと一緒に考えた帰属意識についてですが、やっぱり改めて考えてみても難しいことだと感じました。消防の方からあったように、結局は職員個々の意識の問題なのだと思いますし、仕事があることへの感謝であったりというのも必要だと思います。介護を仕事にする人って、本当に根が優しくて、自己肯定感がとても低いんです。自分に自信が持てなかったり、自分が本当に必要とされているということを感じることができない職員が来夢にもたくさんいる気がします。必要であることを、感じてもらえるように、お話あったように、施設長である私が職員ひとりひとりに声をかけて、頑張っていることを認めてあげたり、頑張ったことを正しく評価してあげる…それを本人に伝えるという作業をしていくことが、離職率を低くして、仕事のやる気…自分が働く職場に対しての愛着…法人に対しての帰属意識へとつながっていくのかもしれません。それにしても、この帰属意識を育む…高める…というのは本当に難しい課題だなと思います。是非、引き続き次回もアドバイスなどあればいただきたいと思います。 〇委員の年度途中の退任について 施設長：施設内で看取りを行いましたが、委員のご家族でした。今回すでに退去の手続きは終わっておりましたが、最後の運営推進会議にご参加いただいております。施設で看取りを経験した感想も含めてお話いただきます。 ご家族代表 〇来夢の杜さんでお世話になりました。運営推進委員としてもこのような会議に参加させていただき、職員の皆さんが、入居者の方の安心・安全

	のためにこんなにもいろいろなことを考え、取り組んでくれているのを感じることができました。感謝しかありません。 〇急に体調を崩して、最初は頭でわかっていても、親はいつまでも元気でいるものという思いもあって、なかなか現状受け入れることができなかったのが正直なところです。でも、人生のカウントダウンを職員の皆さんと一緒に過ごすことができたことは本当に良かったです。最期の瞬間まで一緒にいることができました。 〇亡くなってから、まだ泣いていないのですが今本当に泣きそうです来夢の杜太田さんにお世話になれて本当に良かったと思っています。 ありがとうございました。